

# 2024年度 岡山県支部 防災講演会 「みんなで考えよう岡山地域の地震防災」

公益社団法人日本技術士会中国本部

岡山県支部 防災委員会委員 桐野 真二

## 1. はじめに

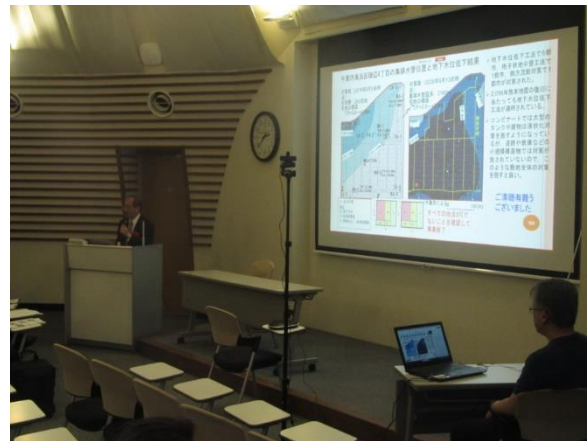
2024年10月26日(土)午後 岡山理科大学において、岡山県支部主催、砂防学会中四国支部、建設コンサルタンツ協会中国支部、岡山県被災者支援士業連絡協議会の後援による防災講演会を開催しました。今回は令和6年1月の能登半島地震の発生を受け、軟弱地盤の多い岡山平野における地震防災力への関心が高まっているため、「岡山地域の地震防災」をテーマに、液状化、地域防災計画、自主防災活動、学校安全について大学、行政、町内会の方から専門的、実践的なお話をお聴きしました。当日は、会場参加者30名、オンライン参加者97名の合計127名の参加がありました。講演後には会場やオンライン参加者から多くの質疑があり、講師と参加者との熱心な意見交換の場となりましたので、その内容を報告します。

## 2. 会場準備・受付

岡山県支部事務局、事業委員会、防災委員会のメンバーにより会場準備、受付、オンライン参加者対応を行いました。



受付状況



会場、オンライン対応状況

定刻の13時から、佐藤丈晴岡山県支部防災委員長の司会で講演会が始まりました。

## 3. 開会挨拶

岡山県支部 支部長 川井 広一氏

川井支部長から、能登半島地震の被災者へのお見舞いの言葉の後、支部防災委員会の活動内容、そのうち「岡山市立公民館における防災マップづくり支援」事業が2023年岡山市の「第8回おかやま協働のまちづくり賞」に選定されたことの紹介がありました。



川井支部長による開会挨拶

#### 4. 講演1「南海トラフ巨大地震による液状化被害について」

東京電機大学 名誉教授 安田 進氏

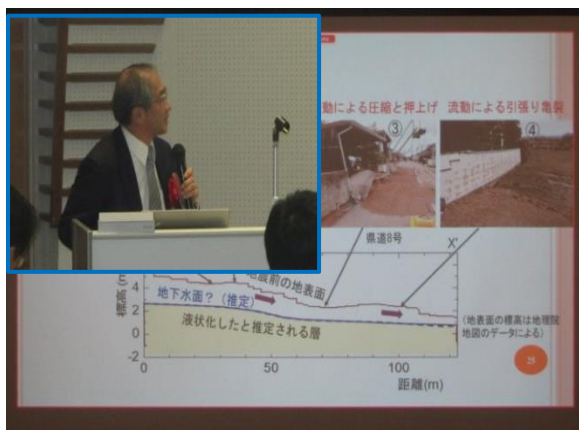
安田名誉教授からは、阪神・淡路大震災や東日本大震災、能登半島地震による液状化被害について、写真や動画による多くの事例が紹介されました。また、実験による液状化の再現、メカニズムの検証動画も紹介されました。

さらに、人工改変された土地での液状化被害が多く発生しているが、居住者は人工改変地かどうか知らないで住んでいることが多いこと、併せて、液状化ハザードマップについても、ボーリングデータの不足などからくる正確性の限界についての説明がありました。

1946年の昭和南海地震では、日本海側でも液状化被害が発生していること、岡山県内でもその後に人工改変された土地も多く、今後予想される南海トラフ地震では岡山県全域で液状化被害発生の可能性があると紹介がありました。

また、岡山県では埋立地である水島コンビナートの産業拠点があることから、随所に埋立地やコンビナートでの被害などについての説明もありました。

その他、液状化判定の新たな基準や対策工法の説明など、幅広く液状化について、非常に参考になるお話を興味深く聴くことができました。



安田名誉教授による講演

#### 5. 講演2「倉敷市における地域防災計画について」

倉敷市防災危機管理室危機管理課

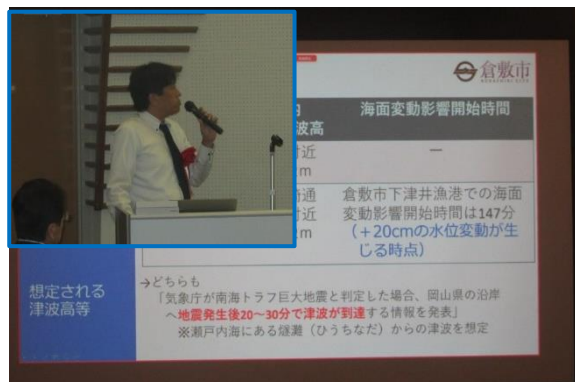
課長主幹 眞鍋 忠良氏

眞鍋課長主幹からは、倉敷市地域防災計画において、地震災害として長者ヶ原一芳井断層による断層型地震と、南海トラフ巨大地震による被害想定について説明がありました。南海トラフ地震による津波被害に関しては、海岸堤防が地震により全壊する場合と、津波により堤防が破壊する場合の2パターンにより浸水想定が全く異なること、また津波による海面変動影響開始時間について詳しい説明がありました。

また、地震発災後の初動体制について、能登半島地震時の役所職員の参集率の紹介があり、総合行政情報ネットワークが発災初日は使えず、情報収集ができず、業務にならなかったとの紹介がありました。

南海トラフ地震が発生した際、津波の到達も考えられる海に近い支所への職員の参集についても、職員の安全を保ちつつ、直ちに行わなければならない業務の洗い出しなどの見直しを進めているとの報告がありました。

最後に、地震発生直後は自分の身は自分で守るしかない、新たな運用に対応した地震対応訓練を実施予定であること、地域防災計画などについて助言・協力をお願いしたいとのことがありました。



眞鍋課長主幹による講演

## 6. 講演3「さつきヶ丘町内会の自主防災活動について」

岡山市北区伊島学区連合町内会

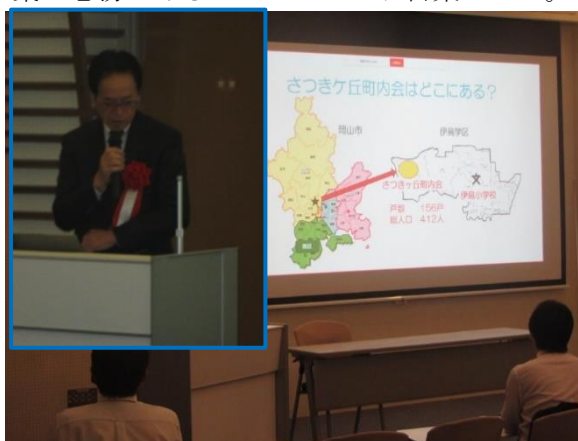
会長 仲達 忠男氏

仲達会長からは、2018年7月の西日本豪雨で亡くなった方は高齢者、障がい者、一人暮らしの人がほとんどであったこと、また町内の一部でも浸水が発生したことを受け、自主防災会の活動の見直しを始めたことが紹介されました。

しかし、実際に名簿を作成しようとしても、行政などから個人情報のため出せないとの回答を受け、自分で調べるしかないと決断された。西日本豪雨直後の10月に町内会全戸に対して、住民の住所、氏名、年齢、緊急連絡先、避難に助けが必要かアンケート調査を行ったところ、災害直後であったこともあり、100%の回答が得られたとのことでした。

翌2019年6月に避難行動要支援者の避難訓練を初めて実施、その後コロナウィルスの影響により3年間中断したが、2023年には、全町民参加の避難訓練を実施した。訓練により、災害時の共助には普段のコミュニケーションが不可欠として町内会行事も活性化させているそうです。

個人情報の管理には気を使っているが、緊急時に、個人情報がないと共助ができない。共助の現場の町内会で助け合える仕組みの構築が急務であるとのまとめのお言葉でした。



仲達会長による講演

## 7. 講演4「学校安全の充実について」

岡山市教育委員会事務局教育支援課

指導副主査 大月 陽介氏

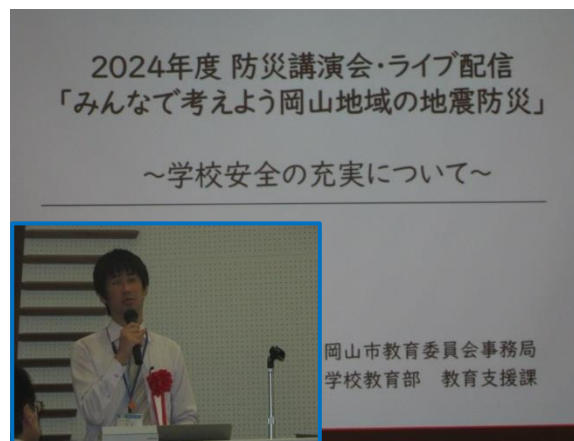
大月副主査からは、学校安全という言葉についての説明が最初にあり、生活安全(防犯)、交通安全、災害安全(防災)の三領域があること、自助、共助・公助の力を持った子ども育てるための教育を行うこと、事前の危機管理・発生時の危機管理・事後の危機管理について日頃の構えをしていることが紹介されました。

具体的には、危機を未然に防ぐために、

- (1) 点検(危険個所の抽出・分析・管理)
- (2) 避難訓練
- (3) 安全教育
- (4) 教職員研修を行っている。

また、文部科学省の「危機管理マニュアルの評価・見直しガイドライン」や、実践的安全教育総合支援事業として学校安全アドバイザーの指導助言を得て、6年間で全市立学校の危機管理マニュアルの見直し、避難訓練の充実等を行っていることの紹介がありました。

事例として、岡山市立藤田中学校区での取り組みの紹介があり、そのうち第一藤田小学校では、地震発生時に一時避難として運動場へ集合した後、二次避難として校舎3階へ避難することとしていたが、一時避難はやめ、揺れが収まるまで教室で待機し、その後二次避難として3階へ避難するように見直したことが紹介されました。



大月副主査による講演

## 8. 意見交換

講演終了後、会場参加者、オンライン参加者も含めて意見交換を行いました。多数の意見や質問が出されました。また、講師から講師への質問などもありました。

以下に質疑の一部を紹介します。

問) 大規模地震時に水道の被害が心配されるが、井戸水の利用は考えていますか？

眞鍋氏) 井戸水の利用は考えていません。上水道の復旧対策を考えています。

問) 福祉避難所の設定は進んでいますか？

眞鍋氏) 倉敷市ではまだ進んでいません。

問) 人工改変地で液状化被害が発生しやすいということでしたが、盛土と切土ではどちらが発生しやすいのですか？

安田氏) 切土部は地盤がよく締め固まっており発生は少ない。盛土部での発生が多い。

問) 一度、液状化被害のあったところは再度被害にあうことはないのですか？

安田氏) 一度、液状化が起こっても、地盤の状況が改善されているわけではないので、再度起こることはあります。

問) 液状化発生の新たな判定方法の説明があったが、ハザードマップへは反映されているのですか？

安田氏) 一部、東京都では反映して作成している所もあるが、まだほとんど反映されていないと思われます。

安田氏) 大規模盛土造成地など被害の発生が心配されるが、避難路の設定に当たって盛土造成地の周辺は避けるなどの考慮をしているのですか？また、通学路について大規模盛土の把握をしていますか？

眞鍋氏) 避難路について考慮していません。

大月氏) 通学路について把握していません。

問) コミュニティスクールの取り組みはどうなっていますか？

大月氏) 防災キャンプを実施しています。

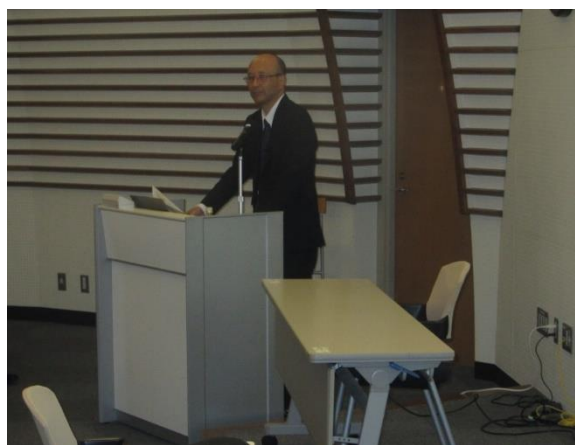
仲達氏) 学校と地域の関係は少ないと感じています。

## 9. 閉会挨拶

### 岡山県支部防災委員会

委員長 佐藤 丈晴氏

佐藤委員長から、講師から貴重な講演が拝聴できたこと、有意義な意見交換ができたこと、講師及び参加者への謝辞を述べて閉会しました。



佐藤委員長による閉会挨拶

## 10. おわりに

岡山県支部防災委員会の今年度の具体的活動計画には、「自主防災活動支援」「マンション防災支援」「学校防災支援」「岡山県被災者支援士業連絡協議会における専門士業連携」を上げています。地域の方からは、能登半島地震の発生を受けて、地震災害についての知識情報の取得や防災マップづくりなどの支援の依頼も増えています。今回の防災講演会は、防災委員会がこれらの活動を今後実施するための課題抽出の場となることを期待して開催しましたが、活動を進めるための熱心な討論と意見交換の場となりました。また多くの参加者にとっても非常に有意義な講演会になったのではないかと感じています。今後とも皆様と協力して地域コミュニティ防災力の向上へ取り組みたいと考えています。